



令和6年1月号 Vol.72  
情報メディア教育センター

2024年は辰年。十二支の中で唯一つの空想上の動物です。日本では海、川、山、炎、風、雲など、自然の姿や力を勇壮な竜になぞらえて信仰の対象としてきました。

「竜に九似あり」といわれるように、角は鹿、頭は駱駝、目は鬼、身体は蛇、鱗は鯉、爪は鷹、掌は虎、耳は牛…と様々な生き物の一部を併せた持った姿をしています。その姿からか、「画竜点睛」、「雲蒸龍編」、「竜吟虎嘯」など竜にまつわるかっこいい言葉もたくさんあります。また物語などでは良いことの前兆に龍が現れることも多いですね。

今年はよい年になるかな。



## Beautiful Earth, forever.

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いします。

さて、もう忘れてしまったかもしれませんが、今年の夏も連日猛暑でしたよね。ようやく涼しくなったと思ったら、急激に寒くなり、そして暖冬。大型台風に集中豪雨、かと思うと、ある地域では水不足。地球の気象がおかしくなっていることを日常生活でも実感するところまで来てしまった

のでしょうか。

昨年末、国連から出された報告書では、各国が温室効果ガスの排出削減目標を達成しても、2030年の排出量は2019年比で2%程度の減少にとどまるとのこと。産業革命前と比べて気温上昇幅を1.5度以内に抑えるためには43%の削減が必要らしいですから、これまで以上の取組みが求められるというわけです。考えてみれば温暖化は50年余りの時間の中で徐々に進行してきたもの。劇的に元に戻すことは難しく当然。

でも…みんなで頑張れば、たとえ2%でも減らせるんだとちょっと希望もあります。しかも2030年というごく近い将来に！より多くの資金や技術の支援があれば削減を強化したいという発展途上国もあり、その場合は5.3%減の見通しも示されています。

青い空やゆく雲の流れを見ていると、地上にいても地球という星の美しさを感じることができます。宇宙から眺めるともっときれいなんだろうな。将来の人たちのために個人としてできることを地道に続ける大切さを改めて認識しました。



SF小説の世界で「気候変動」や「地球温暖化」を扱った作品を特に「クライメートフィクション」とよぶことがあります。例えば、

「蜂群崩壊症状群」(ハチが突然に大量失踪する)が引き起こす食料事情の危機を描いた『蜜蜂』(マヤ・ルンデ著)や地球温暖化によって慢性的な水不足に陥ったアメリカが舞台の『神の水』(パオロ・バチガルビ著)をはじめ、他にも多数あります。

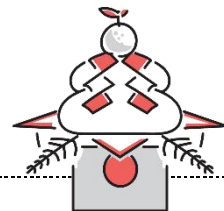
ただのおとぎ話ではなく、科学的な情報やデータを前提にあり得るかもしれない未来を描くのがSF小説。どうかノンフィクションにならないようにと祈りつつ読んでみてください。(大塚)



『蜜蜂』 マヤ・ルンデ【著】  
NHK出版



# 新着図書ピックアップ



## 『小隊』

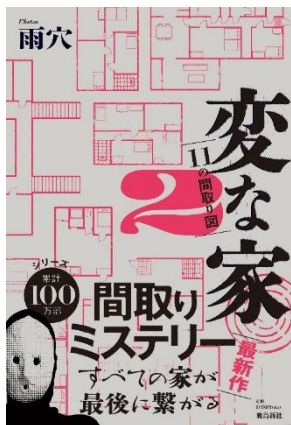
砂川文次【著】 文藝春秋

著者は『ブラックボックス』で芥川賞を受賞した元自衛官。日本に侵攻してきた国と自衛隊の戦闘が、小隊長を主人公として描かれています。戦時下や戦争についての題材は映像でも本でも見てきましたが、この本も非常に迫力があり緊張をリアルに感じられる本でした。リアルさの一つとして、主人公や軍の上層部も敵も初めての戦闘という点です。また人間関係や恋人のことなど日常のことを考える場面があれば、他のことを考える暇もない戦場の極限状態の場面もあります。戦争のこととなると中々想像力を働かせるのは難しいですが、現実を感じさせられる本でした。(大原)



## 『変な家2』

雨穴【著】 飛鳥新社



作家・YouTuberでもある雨穴・著『変な家』『変な絵』に続く第三作目『変な家2』が出版されました。筆者の元に集まってくる事件とも事故ともはっきりしない11件の不思議な話と、その家の間取り。場所も時代もバラバラに起こっているはずなのに、一歩踏み込みその間取りから謎を読み解いていくと、だんだんと共通点が浮かび上がってきます。ラストではすべての話がつながり以外な結末に…。

図を使って全ての話を簡潔にまとめてくれているので、後半読みながら前に戻るというめんどくさい事をしなくていい！非常に読みやすい工夫がされていてありがたかったです・・・(矢田)

## 『財布は踊る』

原田ひ香【著】 新潮社

新年早々、何だか縁起のいいタイトルを見つけました。

物語は子育て中の専業主婦みずほが節約を重ねてためたお金でルイヴィトンの財布を買うところから始まります。せっかく買った財布ですがある事情から財布を手放すことになりメルカリで売ってしまい、その後財布は5人の人々の間を転々と流れていくんですねー。縁起がいいというより、ちょっとシビアでミステリーっぽい話でした。

原田ひ香さんの小説は話の展開がとても面白い上に、たくさんの情報や教訓も含まれていて得した気分になります。お金の知識が増えました。(大塚)



新着ピックアップは毎月、司書が「これはぜひ読んで！」と思う本を選びすぐってお届けします。

上記以外にも新着図書がたくさん届いています。カウンター前の新着コーナーをご覧ください。



他人の読んでいる本が気に入るようになってきた

## 藤崎一臣の本、読んでいこう！ vol.66

『「運がいい人」になるための小さな習慣』 サチン・チョードリー【著】

### 1月の 開館予定

1月	
1 月	休館
2 火	休館
3 水	休館
4 木	休館
5 金	休館
6 土	休館
7 日	休館
8 月	休館
9 火	8:10-17:50
10 水	8:10-18:50
11 木	8:10-18:50
12 金	8:10-18:50
13 土	休館
14 日	休館
15 月	8:10-18:50
16 火	8:10-18:50
17 水	8:10-18:50
18 木	8:10-18:50
19 金	8:10-18:50
20 土	休館
21 日	休館
22 月	8:10-18:50
23 火	8:10-18:50
24 水	8:10-18:50
25 木	8:10-18:50
26 金	休館/国内研修
27 土	休館
28 日	休館
29 月	8:10-18:50
30 火	8:10-18:50
31 水	8:10-18:50

あけましておめでとうございます。人生3回目の年男になりました。気づけば私も30代後半に…。お年玉もいつの間にか貰う立場から渡す立場に…。年は取りたくないものです。

さて、年始め一発目の紹介本ということで、みなさんも自分自身もポジティブで前向きになれるような本を紹介したいなと思い、この本をチョイス！

読めば誰でも明日からすぐに実践できる「運を呼び込む」ためのノウハウを本書から得ることができます。

一般的に、「運」というものは、説明するまでもないかと思いますが、人それぞれ偶発的なもので、幸運といわれる良いものから不運といわれる悪いものまで種類は様々存在しますよね。できることなら、不運は極力避け、幸運だけものにできる「運のいい人」に誰もがなりたいはずですよ。

多くの成功者は、運を上手にコントロールして、必然のものとしているとのこと。自ら良い運を作り出すことができる。と筆者は言います。筆者のサチン・チョードリー氏もその一人。筆者は、インドの方です。今では、母国インドをはじめ、日本、アジア諸国でも数多くの事業を成功に導く実業家として活躍されていますが、この方もなかなかの苦勞人。

日本語も話せないにも関わらず、日本の綺麗びやかな世界に憧れ、わずかな金銭を手に来日。極貧生活を経て彼がどのようにして日本で成功を収め、今や世界規模で活躍する人物になることができたのか。その成功には「運」が密接に関係していたわけです。本書を読んで、「運」は呼び込むものなんだと感じました。そして、いい運を呼び込む方法を筆者のサチンさんが本書に記してくれています。成功するための答えを教えてくれていると言っても過言でないと思います。もう実践するしかないですよ(^)成功者のマインドをあなたも自分のモノにしてみませんか？

私も3回目の年男の年齢ですが、1つずつインプットし、もっと自分自身をアップデートしたいという気持ちになりました。

宗教的な価値観や生き立ちは異なるかもしれませんが、成功者のマインドに国境なんてないと思います。

本書は、まさに運の取り扱い説明書です。

さあ、みなさんも運を味方に人生を豊かにしませんか？



### 第64回 安田 拓真 先生おすすめ

## 『硝子の塔の殺人』 知念 実希人【著】

あまり小説を読まない自分ですが、EMCの本棚に置いてあり、表紙に惹かれ手に取ってみました。王道のミステリー小説で、情景描写も素晴らしく、伏線回収、最後の大どんでん返し…個人的にそのうち映画化されると思っています。それくらい面白い本でした。TikTokやShort動画のように短時間、倍速で映像をシャワーのように浴びるのも悪くないですが、是非1つの本や映画をじっくり味わう時間もとってみてください。

※お薦め本はリレー連載です。次のバトンはどこに渡るかな？



選書に司書が  
懸ける思いを  
四字熟語で表  
してみました。

我々司書は、毎月たくさんの本をい  
ろいろ悩みながら選書しているわけ  
で、とても面白いにも関わらず、残念  
ながら一度も貸出されない本たちがい  
るんです…。貸出の時、バーコードを  
読み込む「ピッ」がなんとも心地よい  
のですが、この音を聞く事なく、淋し  
く書架に佇む本たち。ぜひ、この機会  
に、あの「ピッ」という貸出音を聞か  
せてあげて下さり…!



司書・大原の四字熟語

小さなことからコツコツ  
と積み重ね、貸出本が増  
えるよう努めます。

点滴穿石



司書・大塚の四字熟語

今年もアンテナをいっばい  
はって「こんな本、読みた  
い！」をしっかりとキャッチ  
したいなあ。

飛耳長目



司書・矢田の四字熟語

今年も誰かが貸出し  
来てくれるのを、一日千秋  
の思いで待っています。

一日千秋



＼カウンター前で展示中／

同時開催



図書館からのお知らせ

●卒業される皆さんの本の返却期限について

最終返却期限は2月15日(木)です。受験等により図書の貸出を希望する人はカウンターで利用期間の延長手続きをしてください。

●クリスマス企画「カリ・ヨン・コタ・モラ」×切迫る!

応募の締め切りは1月11日(木)。当選者の発表は1月15日(月)。ホームページか館内の掲示をご覧ください。引換券は大切に…

●開館時間延長

受験シーズン到来!1月10日(水)~18:50まで開館時間延長します。受験生の皆さん がんばってください。

●今年もやります! 図書みくじ(当たり付)

1月9日(火)からスタート! 限定100人です。無くなり次第終了となります。

編集後記 明けましておめでとうございます。新しい年が皆さんにとって良いものでありますように…受験生の皆さん体調にはお気をつけて! (矢田)



ぜひ おみくじ  
引いて行ってく  
ださいー! 今年  
は当たり付。

